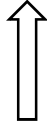


## 全体活動に参加しやすくするための支援

### [児童の姿]

歌を歌っている時に、じっとしていることが難しく、その場から離れる。



### [具体的支援]

・立つ位置に、足型マットを用意する。



### [具体的な状況]

・初めてマットを使用した時には、立っていることができたが、2回目以降は効果がなかった。



### [その後の具体的支援]

・歌詞を書いた、小さな手持ちカードを見せる。



### [その後の具体的な状況]

・歌詞を指で追いつながら、その場でじっと立っていることができた。  
(歌詞があると終わりが分かりやすいようだ)



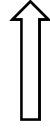
### POINT

いつまでその場にいいのか分からないようだったので、歌詞を見せて始めと終わりがわかるようにすることで安心して参加することができました。

歌詞カードがあると終わりがわかりやすいのと同じで、劇遊びの時に小さい台本、行事の時にミニスケジュール帳を持っておくのも有効です。

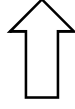
### [児童の姿]

我先に思ったことを口に出して言う



### [具体的支援]

・『※しゃべりませんカード』を見せ、今は静かにすることを知らせる。



### [具体的な状況]

・静かにする約束はわかっているけれど、思ったことをすぐに口にしてしまう。



### [その後の具体的支援]

・朝の会で沈黙の練習をする。その時は、黙って静かにすることをみんなで約束する。



### POINT

約束したことを守り、発言したい気持ちをとどめている姿を認め「よく我慢できたね。」と言葉をかけることが大切です。

### [その後の具体的な状況]

・両手で頭を押さえ、発言したい気持ちをとどめている。

※ 『しゃべりませんカード』…「できた！わかった！たのしいよ！」 P16 参照

# 個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「手をあげて言う」「静かに」のクラスルールはわかっているものの、思ったことをつい口にしてしまい、みんなが静かにしておく場面でもしゃべってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沈黙の練習」の時には、しゃべらずに口を閉じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短い時間を設定して、その間は口を閉じておくことを知らせ「静かに」とはどうしたらいいのか、具体的に感じとれるようにしていく。</li> <li>後で聞く時間を設けることで、いつ言ったらいいかわかるようにする。</li> <li>きちんとクラスルールを守れている時にはほめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沈黙の練習」は口を閉じ、きちんと座ることを意識して取り組んでいる。手をあげて質問することも定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会、終わりの会、制作時など決められた場面では話を黙って聞き、質問は手をあげて言うことが定着してきた。</li> <li>今後は、いろいろな場面でしゃべってはいけない時があることを知っていく。(劇ごこの中など)</li> </ul>
この内容の支援をお願いします。					

保護者氏名

## 沈黙の練習

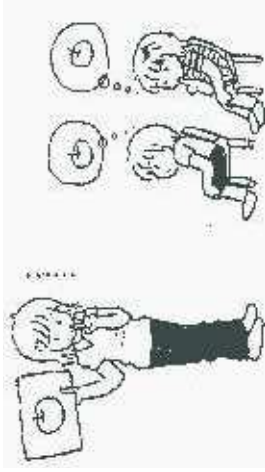
・ ・ ・ P14②

\* \*

「今から3枚の絵カードを見せませんが、何の絵か分かっても言わずに覚えておいてくださいね。」と言ってから、絵カードを見せる。

- \* この練習を繰り返すと、外言語を内言語化することや、記憶力（ワーキングメモ）を養うことにもつながります
- \* 絵カードの枚数の目安

**3歳児-1枚、4歳児-2枚、5歳児-3枚**



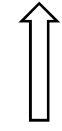
### 【応用】

- \* 「朝の会が終わってから聞きますね。」「給食の後聞きます。」など、いつ尋ねるかを具体的に伝えておき、後から尋ねる。
- \* スリーヒントゲームとして楽しむ。

# コミュニケーションを円滑にするための支援

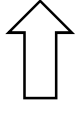
## 〔児童の姿〕

友だちに対して、うまく思いが伝えられず叩く。



## 〔具体的支援〕

・叩いた時や、叩きそうになった時に、保育士が「貸して」「一緒にしよう」など具体的な言い方を知らせる。



## 〔具体的な状況〕

・言葉で伝える場面や保育士に助けを求める場面が増え、たたく回数は減った。  
 ・楽しい気持ちが高ぶると、無意識に手がでてしまう。  
 ・友だちに「たたかんといて！」と言われて気づくことがある。



### POINT

少しの間でも叩かずに過ごしている姿を認め、「今、叩かなかっただね！」と、その態度褒めることが自信につながります。叩かずに過ごすことは当たり前のごとのように思えますが、その子自身にとって、とても頑張っていることなので、きちんと褒めることが大切です。

## 〔その後の具体的支援〕

・友だちにも一緒に参加してもらい、叩かずずっと身体に触るなどのロールプレーをする。  
 ・言葉で伝えられた時や叩かずに過ごしていることを、その都度こまめに褒める。



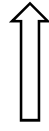
## 〔その後の具体的な状況〕

・ロールプレーを繰り返すことで、力加減を知り、コミュニケーションがとれるようになった。

ロールプレー以外の支援方法としてコミック会話やお願いスキルがあります。  
 (「できた！わかった！たのしいよ！」P18・P37参照)

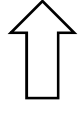
## 〔児童の姿〕

友だちに一方的に関わり、相手の反応を楽しんだり、部屋の中を走り回り回っている。



## 〔具体的支援〕

・クラスルール「部屋の中では歩きます」を伝える。  
 ・別の遊びを提供したり「何をして遊ぶ？」と聞いたたりして、自分で他の遊びを選択できるようにする。



## 〔具体的な状況〕

・一時的にはおさまるものの、納得していない様子が見られる。落ち着くことができず、同じことを繰り返してしまう。

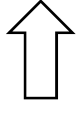


### POINT

体を動かしたい要求を十分に保障し、活動に「動」と「静」のメリハリをつけることで気持ちも落ち着き、室内遊びでのコミュニケーションを円滑にすることができます。保育士が仲立ちとなり、遊び方や関わりの中での言葉のやりとりのトレーニングをします。

## 〔その後の具体的支援〕

・まず、戸外で思い切り体を動かし気持ちを発散することで活動のメリハリをつける。  
 ・室内では、友だち数人で一緒に遊べるように保育士が仲立ちとなる。



## 〔その後の具体的な状況〕

・戸外で走ることによって気持ちの発散もでき、室内では、保育士が仲立ちをすることで友だちと一緒に落ちて遊べるようになる。